



TITLE:

地方税としての酒税

AUTHOR(S):

神戸, 正雄

CITATION:

神戸, 正雄. 地方税としての酒税. 経済論叢 1934, 39(6): 743-761

ISSUE DATE:

1934-12-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/130530>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

叢論經濟

號 六 第

卷九十三第

行發日一月二十年九和昭

論 叢

地方税としての酒税

法學博士 神戸正雄

社會的勢力の分析

文學博士 高田保馬

時 論

増税とインフレーション

經濟學博士 小島昌太郎

臨時利得税を論ず

經濟學博士 汐見三郎

研 究

經營信任會の構成に就いて

經濟學士 大塚一朗

アダム・スミスの貨幣價值觀

經濟學士 岡橋 保

爲替相場
の暴落が國民の富に及ぼす影響について

經濟學士 江口巳與吉

說 苑

貨幣量と銀行制度

經濟學士 中谷 實

附 録

新着外國經濟雜誌主要論題

本誌第三十九卷總目錄

經濟論叢

第三十九卷 第六號 (通卷第貳百參拾四號)

昭和九年十二月發行

論

叢

地方税としての酒税

神戸 正雄

緒

言

今日、財源に缺乏を感じるものは決して獨り國家財政に止まらない。地方財政また然りである。少くとも其の中には財源に窮乏を告げて、切要なる事業を見合せ、教員の給料さへ未支拂の慘狀を示すものさへあるとの事で、地方財源を何處に求むるかは、一の重大な問題である。其について之を色々の方面について探究しなければならぬが、茲に従來、未だ全く問題とされて居らぬものの中に、酒税を採り上げて論じて見る。之については我國現行酒造税法の第三十五條

に、府縣及市町村は此法律によりて造石税を課する酒類に對し、又は、其酒類の造石數、若くは造石税を標準として、府縣税、若くは地方税、及市町村税、其他如何なる名義を以てするも、課税することを得ずとして（但し、此と同一規定は麥酒税法、酒精及酒精含有飲料税法には之を缺く）酒類に地方税の賦課を禁じて居るから、此法規の存在する限り、地方税としての酒税は問題となりやうなしとも見られる。けれども立法論としては必ずしも此に拘束さるるに及ばず、其の改むべきは自由に之を改むるやうに考究して宜しいのであるから、私は茲に捉はれざる立場に立つて此が可否、及、解禁するとしての其の地方課税方法を攷究して見やうと思ふ。

第一段 地方酒税の課税方法

先づ以て地方に於て酒税を課するとしての其方法からして考へる。

(一) 現行税法——にては前にも既にいふ如くで、正式には之が課税はなしといふべきである。けれども其にも拘らず拔道はあり得て、現に其が一部利用されて居るのもある。其は何ういふ事かといふと、第一に、

(A) 麥酒並に酒精及酒精含有飲料税法——には酒造税法に於けるが如き地方課税の禁止規定がないのであるから、地方として、酒造税法の酒類を避けて、單に麥酒並に酒精及酒精含有飲料のみに課するならば其は出來るのである。法規上は差支ないのであり、之を願出たときに、大藏大臣

が之を許さぬと頑張るであらうとは、其の國稅收入擁護の見地からして想像に難くはない。けれども彼とても事情の見透はし如何によりては許すかも知れぬし、其は兎も角もとして、法規上に之が課税に支障はない。そして此麥酒と酒精及酒精含有飲料とだけに地方から重ねて課するとなれば、其理由は何處に置くかといへば、此二のものは新式の酒類であり、虚榮分子の多きものだから、舊來の酒類（酒造税法上の）よりも一層重課することが奢侈制限の教育及經濟政策上の見地から理由づけられるとすべきである。併し反面からいふと、酒類としては全體上、舊來酒の方が主要の地位を占めるのであるから、其を逸して單に新式酒のみに課するのでは、財政收入上の價値が小さいといふ憾があり、大體對等の物につきて一方を課し他方を不課とすることの負擔不均衡を甚しからしめるといふこともあり、差別扱より來る行政取締上の煩累、更には當業者としても監督を受ける上の厄介の多いといふこともあつて、地方の之を敢てするのを躊躇する所である。尙ほ其上にも國の財政の立場からの反對のあり得るといふこともあつて、まだ實現には至つて居らぬ。

(B) 現行回避方法——それで前記の如き回避方法は未だ行はれて居らぬが、茲に既に可なり多く行はれて居る、回避方法は、直接に酒類其ものへの課税でなくして、之をも含めた綜合的なる課税物件の一部としての酒類への稍々間接的なる課税によるものである。夫の禁止法規では、酒造税法にいふ酒類に對して、又は、其の造石數、若くは造石税を標準として地方税を課してはなら

ぬといふから、地方が酒類のみを課税物件としてはならぬ。又、之のみは勿論、他のものと一緒にしても、造石數又は造石税を標準としては課税してならない。併し他の物と一緒にして且つ前記以外の標準にてであれば、課税し得る譯であり、そして現に地方の遊興税、歡興税が行はれて、全き消費金を標準として、随つて其一部としての酒代をも標準の一部として課税して居るのである。此が現に行はるる一の抜道である。遊興税設定當時、夫の規定に抵觸しないかとの疑問もあったが、私は其の心配なしと説明して置いた。幸にして此は許されて今日に至つて居る。だから既に酒類が此方法によりて事實上地方から課税されて居るのであり、何にも地方酒税が全く新しい問題ではないのである。唯、今日に於て地方酒税問題といへば、もつと明確に直接に獨立した地方酒税を許すか何うかといふことが問題なのである。

(二) 地方酒税の諸課税方法——さて之を外國の例について見るのに、其には左の如く色々な方法がある。

(A) 酒小賣營業者への免許税——酒其ものを課税物件とせずして、之を取扱ふ所の、特に其小賣營業者への免許税として取るのも一方法であり、可なり廣く行はれて居る。そして此が單なる營業税(収益税)の意味のものとして行はれることもあるけれども、又、消費税の意味のこともあつて斯の如きものは本來、國税たるよりはむしろ地方税たるに適すとせられる。まさか其大小規模にかかはらず單一料金とすることも出来まじく、自ら段階あるものとならうが、併し單一定額

1) Jessen, Die Gemeindegetränksteuer. S. 65.
2) Sievert, Getränkesteuern. (Hb. d. Fw. II.) S. 212.

税となる例がないのではない。

(い) 定額税たるもの——例之、佛國の地方附加税がさうである。佛國にては市町村は國家のもつ所の飲料小賣人への免許税の附加税として、其本税の二五・%以内を課するを得ることとなり、そして此免許税は國税としては階級税となつて居るが、其が地方(市町村)の大小によりて階級づけられて居るから、各の市町村から見れば其附加税は定額税となり得る譯である。其の國税本税は左の如きものである。

- (1) 住民數 一、〇〇〇、以内の市町村にては毎半年に—十五、法
- (2) 住民數 一、〇〇一、乃至一〇、〇〇〇、の市町村にては毎半年に—二十二、法半
- (3) 住民數 一〇、〇〇一、乃至五〇、〇〇〇、の市町村にては毎半年に—四十五、法
- (4) 住民數 五〇、〇〇〇、を越ゆる市町村及巴里にては毎半年に—六十三法、半

尙ほ此税は單なる貯藏所には課しないけれども、毎店舗に之を課し、一市町村内に一人にて數多の店舗を有つときといへども、其の店舗毎に之を支拂ふこととなるのである。³⁾

(ろ) 階級税たるもの——階級別の標準としては自ら前年の賣上高又は收益額などにより、大體營業を數級に分けて取ることになるであらう。例之、嘗て普魯西にては、市町村は、國税たる、宿屋、料理屋及酒小賣商に對する經營税(營業税以外に取る所の)に對して附加税を課するを得たのであつたが(尤も獨立税として之を課することも出來た)、其本税たる經營税⁴⁾は左の如くであつた。

3) Félix, La réforme générale des finances locales II. p. 139-140.

4) Lohmann, Die besonderen direkten Gemeindesteuern. S. 162.

(1) 營業税に於ける免税點以下のものに

(2) 營業税の第四級のもの

十馬克

(3) 營業税の第三級のもの

十五馬克

(4) 營業税の第二級のもの

二十五馬克

(5) 營業税の第一級のもの

五十馬克

それから嘗ての獨逸ゴータ市の地方税たる麥酒の居酒屋税が、

(1) 年賣上高三〇〇、ヘクトリター以下のものに其一ヘクトリターにつき

三十布

(2) 同上、三〇〇—六〇〇、ヘクトリターのものに

四十布

(3) 同上、六〇〇—九〇〇、ヘクトリターのものに

五十布

(4) 同上、九〇〇以上のものに

六十布

となつて居つた。⁵⁾

更らに嘗てのザクセン大侯國の地方税たる一回的なる宿屋、料理屋及酒小賣商の免許税が、其大さ、方法等により分級して五馬克から五十馬克までの階級税を課したのであり、それから最近一九三〇年以來、瑞西のカントンにて、居酒屋及火酒の小賣商に免許税を課するやうになつたが、其は二〇—二〇〇法を最低率とし、一二〇—六、〇〇〇法を最高率とするものだといふことである。⁶⁾

は比例税たるもの

(1) 從價比例税たるもの——例之、現在、獨逸の郡税たる居酒屋の免許税で、尤も其は居酒屋の新設、讓渡(相續を除く)及、酒類小賣の許可に課するものだが、其が投下及運轉資本の少くとも二・五%、收益の少くとも五・%に當るものを課すとして居る。⁸⁾それから英國には地方税とし

5) Ackermann, Thüringer Gemeindesteuern. S. 129.

6) Ackermann, ebenda. S. 28.

7) Jessen, a. a. O. S. 66-67.

8) Bleicher, Kommunale Finanzwirtschaftslehre. (Hb. d. Fw. II.) S. 465.

ての此種のものを缺くが、その國稅たる居酒屋の免許稅は多くは家賃の半額を課するのだといふことである。⁹⁾

(2) 從量比例稅たるもの——其例は前記、ゴータの麥酒の居酒屋稅であつて、其は分級的なる從量比例稅だといふことを得るものである。

(B) 酒其ものへの課稅——とすることも出來、其にも色々な方法があり得る。

(い) 小賣課稅法

(1) 酒類小賣人の現實なる賣上高の幾%を課する方法——此方法にては小賣人をして各、帳簿を備付け、日々の賣上高を記入せしめて、其前月分を翌月に至りて、又は四半季分を四半季經過後に申告せしめて納稅せしめるのである。¹⁰⁾ 此方法は課稅標準が賣上高だから最良く公平に適う。¹¹⁾ 高價の物を而かも多量に消費するものは、廉價の物を少量に消費するものよりも一層重く課せらるることになつて、消費者の能力に應ずるに於て、適切であり、造石稅などよりも消費稅としては一層公平なるものである。申告に虚偽が行はれずやとの心配なきにしもあらずだが、慣れると、當業者もそんなに多く虚偽を行はぬであらうし、又當局者にて相當取締りをすることも出來やう。唯だ難點は、此種營業の實際にては貸賣が可なりに多きこと、其も或營業にては他のものよりも一層に多いといふことがあつて、營業者が貸賣の場合の稅を負はなければならなくなり、立替拂をすることになり、其が客から結局支拂はるれば宜しいけれども、其不拂に歸する爲めに苦しむ

9) Heyer, Das britische Finanzsystem. S. 38.

10) Jessen, a. a. O. S. 36.

11) Asch, Gemeindefinanzen und- steuern. S. 46.

といふことがあり、其が營業者に及ぼす經濟上の損害といふものがあり、其が又營業者によりて一樣でないことからして生ずる不公平といふこともある。或は貸賣の場合に於ける特別宥恕方法も考へらるるが、之を行へば之を濫用さるるといふ心配もあり、また此種の營業は、本來、營業者として或度まで貸賣不拂を豫想するものなのであり、其から生ずる損害は初めから豫算に入れて營業して居るものであり、且つ之に對しては税法上宥恕をしないとしても、此の如き救済のなきものと初めから定まつて居れば、營業者としては其積りで貸賣、貸倒れを避くる方法を講ずべきものとも見られる。之を營業者が怠つた爲めに損失しても其は彼の責任としなければならぬ。といふて之を不問にすることも出来るが、併し其は營業者に對して尙ほ氣の毒との感知は残る。兎に角一の難點ではある。かく此に難點があるにせよ、比較的適切なる方法としては見られる。

(2) 印紙課税方法、即ち小賣に際し一々の其に受取書又は計算書を出させて其に地方發行の印紙を貼用せしめ、其を従價幾許%とする方法¹²⁾——此は國家の印紙課税の行はるるだけにては二重になることにて多少煩雜を加ふるといふことはあるが、技術上行ひ得られ、多少取締上の煩は伴ふけれども、行政にとりても人民にとりても便宜に合ふといふこともいへる。従價比例率を採れば、公平の上に於て前の方法と同一度であり得る。唯だ特に此方法の難點は、營業者が豫め印紙を買入れ置かなければならず、其爲め税を前納することになるので、其點からしては、營業者に於て前記の賣上課税よりも一層の不利を招くといふことがあり、地方政府としても印紙の印刷費

12) Jessen, a. a. O. S. 36.

13) Jessen, a. a. O. S. 42.

が可なり嵩むといふことがあり、營業者にても手数を多くかけるといふこともある。¹⁴⁾ 尙又、貸賣の場合に受取書へ印紙貼用といふことは出來ず、其場合には計算書を出して印紙を貼用するとすれば政府としては都合が良いが、營業者としては取れるか取れぬか判らぬものの爲めに納税するといふ不都合がある。で此場合には、後日現金を拂つたときの受取書への印紙貼用のみとするとすれば、此非難は免れることが出来るが、然るときは今度は納税延期方法として此を濫用することになる恐もある。何れにしても難點を伴ふ。

(3) 酒類小賣人の評定賣上高に幾%を課する方法¹⁵⁾——此賣上高は現實のでなく、前年の現實を參考として、更に貸賣の多少、時の經濟景況などをも參酌して、政府と營業者との間に協定をして一々の小賣人につき定めるのである。此方法は前の現實のに依る爲め、あまりに營業者に嚴酷となるのを緩和するには足る。此れなれば多少貸倒れの分を營業者にて負ふやうになつても、大したものとはならず、忍び得る度のものにて濟み、營業者への壓迫は少くて濟み、そして課税技術として行ひ得るものであつて、徴税費も多くかからずして濟み得る。¹⁶⁾ ただ併し其が動もすれば政府の役人と業者との間の紛争を増し、吏員の恣意を多からしめ、其の腐敗を導く恐はある。營業者の間に適切なる公平を得しめやうとして、却つて不公平となる恐もあり、消費者の負擔としても不公平のものになる嫌はある。尤も此等は見様によりては忍び得べきものとされ、慣るるに従つては此等の弊害を甚しきものたらざらしめることも出来る。

14) Jessen, a. a. O. S. 41-42.

15) Jessen, a. a. O. S. 37.

16) Jessen, a. a. O. S. 41.

(4) 酒類小賣の賣上高を共同業組合と政府との間の協定による方法——此は一地方の酒類小賣人の全き小賣高を年々、政府と同業組合との間に概算し協定して其に相當の課税を爲すものである。だから今日我國にて遊興税の請負法によるのと似たものである。此にては結局、各小賣人の負擔額が當業者の内部の割當に任かされ、政府として與らぬことになり、彼等の内情に應じたる相對的公平が、政府の手によるよりも一層適切に得られるといふ長所がある。又、行政運用としても一應便利なるものであり、財政收入上にも政府に豫定の收額を確保するといふことの利もある。ただ其協定される所の標準額が必ずしも適切のものとは限らず、組合の政治上の勢力如何により、又技術的方法如何により或は過高となり或は過低ともなる。前者なれば當業者不當に困り、後者なれば政府が不利を受くる。經濟上か、財政上か、何れかに不利を生ずる。加之、營業者内部の配當が必ずしも常に適切とは限らず、不公平となるかも知れぬし、隨ふて消費者にとりて見れば益々以て不公平なる負擔に歸するかも知れない。

(5) 前記第三、第四の概算評定法につき賣上代金を採らずして、賣上分量によるの方法¹⁸⁾がある。此は各種酒類の賣上分量を、各小賣人につき又は組合につき評定し、豫め定められたる各種酒類の一分量單位の標準價格に相應したる税率を適用することになるのである。何々酒は一石につき何圓といふ風に定め、之を右評定量に適用するのである。此方法は價によらずして量によるから、取締監督上には一層便であり、逋脱も少くなり得るであらう。ただ此れだと、低級品

17) Jessen, a. a. O. S. 37.

18) Jessen, a. a. O. S. 37.

には税が割高となり、高級品に割安となり、消費者の負擔として大なる不公平となるといふ缺點がある。只さへ消費税が逆進税だといふ非難を受けるのに、此によりて其非難を増長するといふことを免れぬ。又、當業者の負擔となる點からいふても、高級品を扱ふ者の方が廉價品を扱ふ者よりも一層利益の多き傾のあるだけにては、矢張り不公平である。

(6) 以上は何れも凡べての酒小賣高を物件とし標準とした課税方法であるが、之を特に、狭く營業的店舗に於て飲用される物のみを課税物件とし、各人の私經濟内にて消費するものを除くとする¹⁹⁾ことも出来る、——此は現に獨逸の一九三〇年の市町村飲料税法の採る所で、少くとも其價格の五%を課すとして居る。一九二二年に採用され一九三〇年に廢止となつた所の丁抹の居酒屋消費税も、客營業(ホテル、レストラン、カフェー等)に於ける消費に従價一割とした²⁰⁾。此は一には此酒類には既に相當に重き國税がかかるのであり、其上にも凡べての酒類に地方課税しては國稅收入に惡影響を及ぼすのを豫防するといふ考も潜んで居るであらうが、其を別としても、齊しく酒を飲むといふても營業所にて飲むのは、自宅にて飲むよりも世間公衆との交渉が一層深く、其にて醜態を演ずるに於て善良の風俗に反するの故に、或度まで特別重課によりて之を抑制したしとの考もあり、又、此に於ける飲酒には家庭に於ける其に比して附帶の消費の一層多くなる傾もあつて、一層多く贅澤の分子を有つとも見られ²¹⁾、かかるものへの重課は、多少は給付能力の考慮からも、經濟、教育、風教上の諸見地からも辯護し得られる。特に我國の今日、酒税が田

19) Jessen, a. a. O. S. 3. Terhalle, Fw. S. 453.

20) Jessen, a. a. O. S. 65-66.

21) Jessen, a. a. O. S. 27.

舍農民には既に過重だとすれば、此上に凡べての酒小賣に課税しては彼等に堪へ難き負擔を加へることになる。併し都會民なれば尙其に堪へられるだけの餘地があり、そしてかかる營業所に於ける飲用の機會は都會民に多いのだから、此方法なれば堪へ難きものを宥恕し、堪へ得られるもののみに課するといふことも出来る。ただ此方法によるときに、同一の物件につき飲む場所の異なる點によりて負擔を別にし、其爲めに公平たらんとして却つて不公平となることも少くないといふ缺點を有つ。營業所にて飲む人必ずしも能力大な人と限らず、貧乏なる其日稼ぎの勞働者であることがあり、自宅が勞働場よりも遠い爲めに又は自宅があまりに手狭な爲めに止むを得ず貧乏人が營業所にて飲むといふことがあり、能力乏しき者が營業用の爲めに已むを得ずして營業所にて飲むことがある²²⁾(例之、旅商)。そして却つて巨萬の富をいづく人にして自己の廣大なる邸宅内にて飲用するものがあるといふの對立を見出す。又、かくして同等の酒であるにも拘らず、或ものを課税し他のものを免ずるときに、自ら人をして免税方法を選むのを多からしめる。隨ふては之にかけられたる税を凡べて營業者から消費者へ前轉することが出來惡くなり、税の一部が營業者に後轉することの可能性も大であるといふ不都合もある²³⁾。又同一の營業所にて扱ふ同種の物體につき或ものを課税し、他のものを無税とするときに、二のものの間の融通が行はれ易く、其爲め通脱の可能を大ならしめるといふこともある。

(ろ)入市税(オクトロア)。——此は酒類を入市税として取るのである。其市町村にて酒類の生

22) Jessen, ebenda.

23) Jessen, a. a. O. S. 25.

産が全く行はれず、其にて消費するものが凡べて移入に待つ處では、此にても行ふて有效である。尤も此を行ふには、市町村の周圍に稅取締に適したる障壁が備はらなければならぬ。だから何處にも行へるといふものではない。處によりては實行難である。²⁴⁾ 假りに其市町村内に其生産が行はれるにも拘らず、之を課するとすれば、其市町村内の生産者に過大なる保護を加へることとなり、少數者の利益の爲めに多數消費者を犠牲に供するといふ非難をも免れない。即ち之により地方民中に不公平を生ずるのみでなく、之を全き國民經濟より見るに於て、此地方の外にある營業者(生産者)を不利に置き、國民全體の圓滿なる發展を阻害するといふ缺點もあるから、國としてかかる制度を認めぬが得策である。佛國にては由來、各地にて之を行つて居たのであるが、一九一八年に、壘詰葡萄酒の外の酒精飲料の入市稅を禁止し、爾後は、國の酒類諸稅收入等の一定部から成る地方資金を作つて、其をば各地方に交付することになつた。²⁵⁾

(は)生産稅と入市稅とにて課する方法——今一つ殘る所の地方稅は、獨逸のコブルヒ侯國に嘗て行はれて居つた地方麥酒稅である。其は地方内の釀造に用ゐらるる麥芽課稅の方法による麥酒稅と、移入麥酒稅とから成り、而かも其地方から外部に移出する麥酒には戻稅を行はないものである。²⁶⁾ 此國にて行はれた實際のは戻稅を行はなかつたけれども、本當いふと、之には戻稅をつけるのが最自然的である。たださうなると面倒でもあり、場合によりては、其地方が、麥酒の大生産地といふ場合には、あまりに多くの稅金を營業者から前取して其の爲めに營業者の營業を苦し

24) Lampe, Getränkesteuern. (Wb. d. Vw. 4 Aufl. II) S. 90.

25) Jessen, a. a. O. S. 67-68.

26) Ackermann, a. a. O. S. 143.

め且つ金融上にも困難を來たすといふことが生ずる。併し其地方が、酒の移入超過地であれば、此れで宜しい。又何れにしても此方法は財政上には好都合であり、技術上にも事情によりては容易である。即ち其の行はるるには特に入市税の行はるるに好都合なる條件が備はらなくてはならない。

第二段 地方酒税の可否

以上いふ如くで、地方酒税の課税方法に完全無缺なものはない。けれども多少の缺點さへ忍べば之を實行する方法がないのではない。恐らく之を行ふとすれば小賣の賣上課税位によるのが適當であらう。さて大體、其を土臺として此税の可否を考へるのに、其も斷定は六つかしい。其長短を各方面から考慮して、其の何れか、今日の實情として重きを置くべきかによりて決する外ない。で左に此税の長短を指摘しやう。其の前に一應、現行法の理由を説く。

(一) 現行法の説明——今日我國にて地方酒税を許さぬのは何故か。

(A) 財政上——の理由が主たるものである。特に國家の財政の立場から、其の最大事にする財源を涵養するが爲めである。此が既に國税として相當に重き上にも、地方税をもかけるときは、自ら國の收税狀況を不良とせざるを得ぬ。之を避けやうといふのである。

(B) 經濟上——からいふも、當該營業者が既に相當重き税を負ふ上にも地方税までかけられては

其が好景氣に恵まれて前轉の易々たる間は宜しいけれども、多少後轉の行はれざるを得ざる事情となると、營業者の被むる壓迫が大で、堪へ難きものとならなければならぬ。其の經濟上の弊害をも顧慮したのである。

(C) 公平及社會政策上——にも、酒税のやうな税は財政收入上已むを得ず採用するけれども、負擔の公平とか社會政策上には大な缺點を有つ。だから、かかるものは既に國家が採れば澤山で、其上に地方をしても採らしたるのは出來るだけ抑へたが良いといふ趣旨にも出る。

(D) 道義上保健上——あまり酒税の如きものを重課すれば、自ら逋脱を誘ひ、粗惡品の販賣を促し、國民の道義を紊し、國民衛生にも好ましからぬ結果を生ずるのを憂へたのである。

かやうに色々の事を考へることは出來るが、何といふても其重なる理由は第一の財政上にある。そして今日の國税酒税の既に相當重く、且つ將來尙増率の勢があり、國家としてもつと此から增收を期せんとして居る時代、又は其假定の下には、地方課税を制限する事が繼續されるであらう。併し幸にして國家が此に於て其上の増率を進めぬといふならば、そして彼の之が收入を現行税程度にて満足するといふならば、地方にて或度まで之が課税に参加するの餘地なきにあらずである。或は國家が自ら此財源を一層利用しやうとして居つても、更に地方をしても之に参加せしめるだけの寛裕なる態度を示すのも一策である。

(二) 本税の長短

(A) 長所

(い) 財政收入上——には、此が既に國税として大收入を生じて居るのであり、其地方課税率が急激に重くかけられては、消費減退を誘ふて豫定の收入を擧げ得ぬことにもなるが、其の適度な賦課であれば、左までの消費減退を引起さずして相當の收入を擧げ得るであらう。田舎では國税の上にも地方税を酒にかけては過重となるであらうが、都會地の消費狀況からいへばまだまだ地方税を課しても、消費の著減を生ずるほどの事はあるまい。特に此酒税は割合に不景氣の影響としての減收の甚しからぬといふ特徴²⁷⁾を有つものだから、尙更ら此點に於て好都合である。

(ろ) 公平課税及社會政策上——(1) 國税酒税への單純なる附加税であれば、現在の國税の不公平を増長するけれども、前にもいふやうに地方税としては賣上金高に課するとすれば、從量の國税よりは一層公平なるものたり得る。之により高級品は低級品よりも一層重く課せられ、都鄙を通じて同等に課税さるると前提しても、田舎の人は都會人よりも大體一層安き酒を消費するから、之によつて田舎民の負擔を相對的に軽くすることも出来る。まして此地方税を都會だけの地方税とすれば酒に關する限り田舎民の負擔を緩めることにもなる。かくして此税により公平の得らるることは貧民救済の社會政策にも一致する。(2) 更に地方税に於ける利益原則加味からいふも、一方、貧乏人は教育・救済等によつて地方政府の世話になり、其經費をかけることが大いに、他方、彼等が地方の直接税も殆んど之を負はす(戸數割なき處には特に然り)、且つ地方消費税もないといふのでは、夫の補償が不十分といふ嫌がある。酒の地方税は此補償に役立つともいへる。更に突き進んでいへば、酒の原因からして種々なる社會的困難及紛争が生ずる。其爲めの地方行

27) Lichtenstein, Die Finanzwirtschaft der deutschen Grossstädte von 1925. bis 1931. S. 97.

28) Schwarz, Das Gemeindeabgabenwesen Deutschlands. S. 13.

政費といふものの財源をば、この酒に求めるのが理由なきにあらずといへる。

(は) 經濟上——酒の消費が此加税によつて幾分なりとも制限せらるるを得るならば、其れだけにては、此が國民に節約をすすめ、資本造成に貢獻するといふ作用をももつ。

(に) 教育及保健政策上——此の加税が國民に多少なりとも消費上の反省を促し得るならば、教育上にも保健上にも有意義である。

(B) 短所

(い) 財政收入上——には(1)或は酒への此加税が酒の消費の大減退を生じて爲めに、國稅收入を損し、且つ地方としても豫期の收入の得られぬ恐がある。(2)又、現在の處は此新しき税も堪へ得られて右いふやうな格別の結果を生ぜずとしても、將來、財政需要が生じて増率を爲すときに、其によつて豫期の増收入が得難く、²⁹⁾成は必要の減じたるときに減率しても豫期の減收の得難いといふことがあり得る。即ち收入に屈伸力を缺くといふ弱點がある。尤も其は酒税だけの弱點ではないのだけども。

(ろ) 公平課税及社會政策上——此税にて賣上高による爲めに從來の從量税よりも一層公平になり一層社會政策に合ふといふても、此消費税に伴ふ根本的の弱點、不公平及反社會性は尙ほ之を除くことは出來ぬ。消費者への負擔のみならず、營業者への後轉可能性の大なることも亦、一的不公平である。尙又、賣上の課税に技術上、逋脱の弊を免れず、其から生ずる不公平もある。賣上高の實績によらずして、箇々の又は組合的なる協定によるものの如き亦、其々に別箇の不公平

可能性があること、上に各方法の處でいふ通りである。

(は)課税技術上——之が技術上出来ぬといふほどのものではないが、所詮、多少の逋脱を伴ふを免れず、行政當局者としては吟味調査の勞が相當に多く、營業者としては經濟内部に立入らるゝの厄介を受ける。徴税費も、やりやう如何では、さうかからぬともいふが、割合に多くかかることは覺悟しなければならず、特に酒小賣業者には小規模のものの多いといふことが取締を厄介ならしめ、其費用を多からしめるといふ事に一層與つて力がある。³¹⁾

(に)道義上——前にもいふ如く此税に逋脱の恐が相當にあるといふに於て、其れだけに世人の道義を低下する恐がある譯でもある³²⁾ 尤も其は此税に限つたことではない。

(は)經濟上——(1)何といふても此酒消費への加税は營業者より消費者への前轉を困難とする。

營業者は消費者から反撥され其上にも競争營業者が通例多いことの爲めにも前轉を困難とせられ其税が業者の負擔に歸着し其の利益を減少し、其貯蓄の餘地を狭める傾がある。他方、消費者に於ては節約を進めるけれども、此と差引して國民經濟の全體上に、此税が資本造成の上に有益となるか何うかは疑問となる。³¹⁾ (2)特に此税は各地方にて多少其高さが異なる結果、此税の安い方の地方に於ける營業を繁榮せしめ、高税地の同業を衰微せしめる傾があり、即ち地方間の經濟發達の不調和、或地方の經濟發展の阻止といふ弊を伴ふ。尤も、此事あるの故に、各地當局が他地方、特に近接地方よりも高税とならぬやうに、均衡を破らぬやうに注意するだらうから大した弊を生ぜずして濟むし、又其税、隨つて價の差が少々位異なるからといふて、態々他地方へ買ひに往くと

30) Lichtenstein, a. a. O. S. 97.

31) Jessen, a. a. O. S. 13, 25.

32) Jessen, a. a. O. S. 47.

33) Jessen, a. a. O. S. 25.

34) Jessen, ebenda.

35) Jessen, a. a. O. S. 30.

すれば、時間の損失もあり交通費もかかるから、大して心配するほどに多くは高税地方營業の衰微を生じないであらう。³⁶⁾但し又、地方によつては酒營業の發達よりも他の營業、並に特に住民の保健、教育等の向上に重きを置いて、むしろ酒消費に重課を斷行するもあらうし、又他の地方にては、むしろ外來遊興者歡迎といふ方針で、之が課税を軽くするもあらう。又田舎の如きにては住民の購買力度を考へて軽くするといふもあらう。或程度まで、各地方の獨立の考に任かして良い。併し大體は各地方の間に大した差等は出來ないことになるであらう。

結 論

以上要之、地方酒税は我國現在にては直接、端的に之を課することを禁止して居るけれども、そして其は國家の稅收入を擁護する上に必要であるけれども、併し他面、地方も亦財源難に苦しむのであるから、國家が地方の爲めに其財源の一部を割愛するといふのも一策であり、其地方課税には多少の弱點を免れぬけれども、此が地方財政に或ものを加ふるのではあり、そして此を地方にて課することに公正上の根據もありと認めらるるから、敢て之を許しては何うかと考へらるる。そして其課税方法としては、單なる國稅附加税としては不公平を増長するから宜しからず色々の獨立課税方法も考へらるるが、中に就きては、小賣に於ける賣上課税方法を行ふのが適切と認められる。